

寺内古墳群、相方遺跡(第2次)

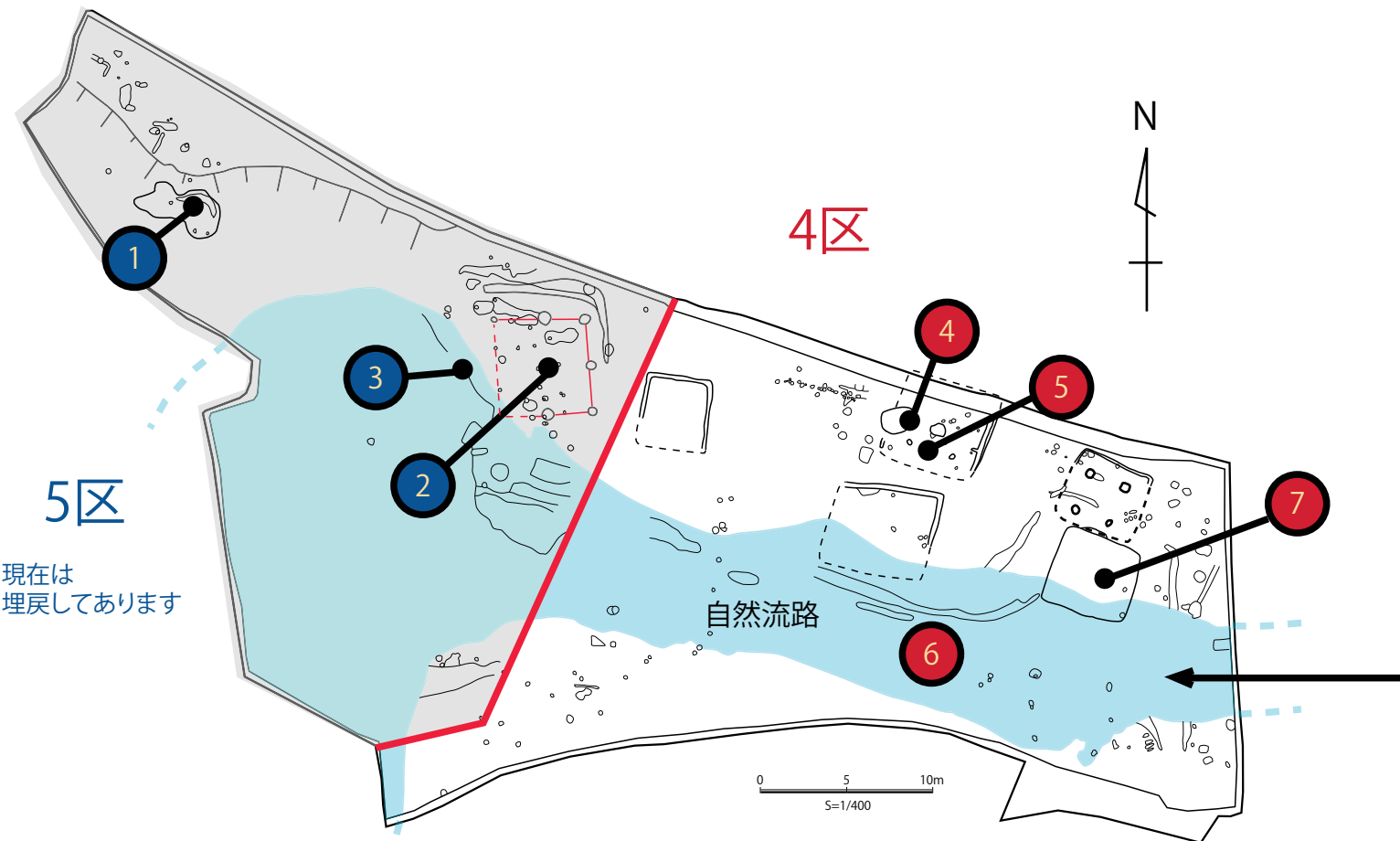
発掘調査現地説明会資料

平成28年10月2日(日) 13:30~14:30

【はじめに】

(公財)和歌山県文化財センターでは、西日本高速道路株式会社の計画する近畿自動車道和歌山南スマートインターチェンジ(仮称)の建設と、和歌山県が計画する和歌山橋本線の改良工事および海草振興局建設部の庁舎建設に先立ち、当遺跡の本発掘調査を実施しています。

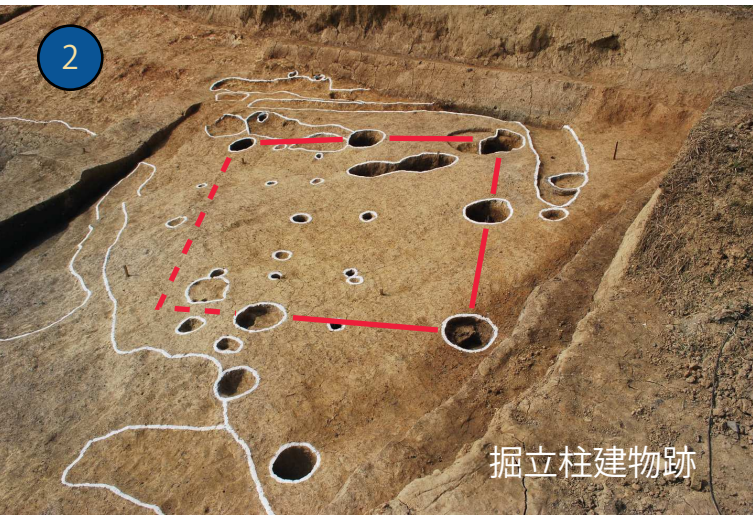
発掘調査は、作業工程等の関係から調査区全体を東西に2分割し、東半を4区、西半を5区として5区から発掘調査を実施しました。現在、5区は発掘調査を終え埋め戻しており、4区の発掘調査を実施しています。



*現在は埋戻してあります



不明遺構



掘立柱建物跡



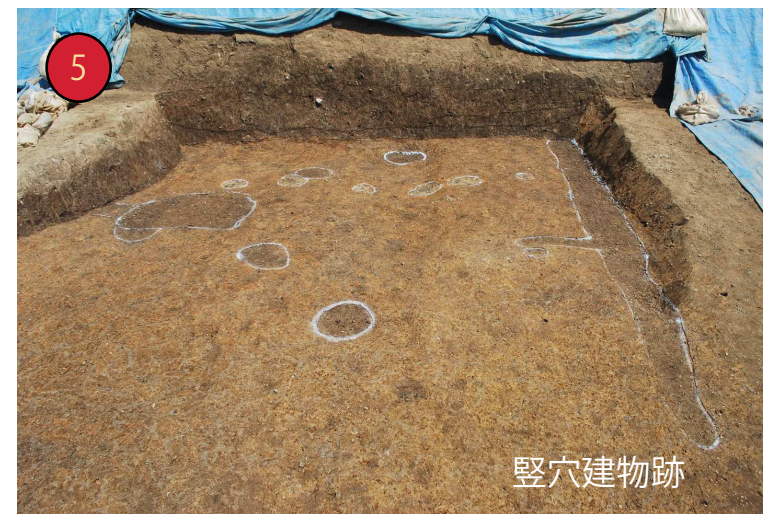
墨書土器



底部外面



溜桝



竪穴建物跡



流路(東から)



竪穴建物跡

【調査の成果】

調査の結果、4区では鎌倉時代の溜桝④、弥生時代の方形竪穴建物跡が5棟⑤・⑦、西側へと流れる弥生時代~鎌倉時代の自然流路⑥がみつかっています。竪穴建物跡の規模は、1辺が4、5mで、屋根を支えるための柱の穴や火を焚くための炉を備えているものもあります。時期は、概ね弥生時代の終わり頃と思われます。

また、5区で確認された主な遺構は、鎌倉時代の遺構①、平安時代の2間×2間の掘立柱建物跡②、大きな自然流路です。自然流路からは、弥生時代の土器、平安時代の土器、鎌倉時代の土器がみつかっています。平安時代の土器③の裏底には、墨で文字が書かれたものがあります。